

とっぴーと通信

2020年3月16日発行

204号

「とっぴーと通信」は略して「とっつ」。いつも読んでいただきありがとうございます。

こんにちは！平川です。ようやく春めいてきました。いかがお過ごしですか。春の訪れにワクワクしますね。と言いたいところですが、テレビは連日、コロナウィルスの報道ばかりで気が滅入ります。報道は不安をあおる傾向があり、感染すると重症化する。といったイメージがありますが、厚生労働省のHPにはこう書いてあります。

「新型コロナウイルスに感染した人は、ほとんどが無症状ないし軽症であり、既に回復している人もいます」たしかにウイルスの正体が不明で不安にもなります。しかしウイルスを恐れるあまり、景気の低迷が長引くようなことになれば、経済活動に深刻な危機が発生します。マスコミには、無症状、軽症、回復された方の事も平等に報道していただきたいです。また無症状ということは、私自身が感染源になつての可能性があるわけですから、感染防止には気をつけなくてはいい

ません。では今月もはりきっていきましょう。



どう受け止めるかが大事

今から30年前、25歳の頃です。ある会社で営業をしていました。私はどちらかと言えば、誰とでも親しくなれる方ですが、当時どうしても気が合わないお客様がおられました。会話がすすまないのです。考えただけで胃が痛くなるほどに。しかも大口のお客様です。そのお客様は、私が提案する事をことごとく却下され、はじめの頃は、提案内容に問題があるからだ、と思っていました。しかしどうも私自身が嫌われているようなのです。その理由も分からず、悩んだあげく上司に相談しました。「私には無理です。担当を変えてもらえませんか？」と。すると上司がこう言いました。「きつとそのお客様は、あなたの弱い部分なんだらうね」と。えっ？弱い部分ですか？「はい、そうです。よく考えてみて下さい。あなたにとっては苦手なおお客様かもしれないけど、もしかすると別の担当者だったら気が合うかもしれない



のですよ。ということは、あなたの弱い部分が現象として現れているだけです。もっと言えば、弱い部分を克服しなさい。とそのお客様が教えて下さっているのです」つまり人生における逆境や苦勞とは、あなたに何かを教えるように近づいてくる、まさに師であり、成長の機会なのです。目からウロコが落ちました。私は心を入れ替え、そのお客様に接するようになったら、食事に連れて行ってくれたり、結婚のお祝いをいただいたり、今でも時々連絡をする間柄となりました。それ以来この考え方は、逆境に遭遇した時の私の指針となりました。しかし人生は時として、心が折れそうになる程、過酷と呼ぶべき逆境がやってきます。そうした時、どのようにして自分を支えることが出来るのでしょうか。先日読んだ本にその事が書いてありました。とても共感しましたので、ご紹介いたします。

『ある男性が米国に出張中、自動車を運転していて醜い交通事故に巻き込まれ、大怪我を負い運び込まれた病院で、左足を切断する結果になりました。本人は「一瞬の事故で人生を棒に振ってしまった！」

と悲嘆の底にありましたが、日本から駆けつけた奥さんは、病室に入るなり、何と言ったか。その奥さんは、旦那さんを抱きしめ、こう言ったそうです。「あなた！良かったわね！命は助かった！右足は残ったじゃない！これは実際にあった話ですが、この話は我々に大切なことを教えてくれます。何が起ったのか、それが我々の人生を分けるのではない。起ったことをどう「解釈」するか、それが我々の人生の分かれ道で、真に「運命」を分けるのです」なるほどですね。起った事はリセット出来ません。受けとめるしかありません。とするとコロナウィルスはどう解釈すべきか。いったい何を教えるようにしているのか。今だからこそ出来る事は何か。過度の恐怖心を拭き去り、なんとしてここに踏みとどまらなくてはいいかもしれません。

人生で起ることすべて良きこと
人生で起ることすべて良きこと
田坂広志著

発行／有限会社アサム
〒819-1127 福岡県糸島市有田中央 2-14-36
Tel: 092-321-4001 Fax: 092-321-4002
・専門学校&スクールサーチ : <http://www.asamnet.jp/>
・ブログ : <https://itorinri.com/>